

手の外来手術を受ける患者への援助を考える

— オリエンテーション項目と術前、術後パンフレットを作成して —

外来診療部

○小松 真貴 植木累美子 奥田ゆかり
高橋 綾 久市 修佳 山北 加恵
柴岡 三枝 岡島 寿子

I はじめに

当院整形外科外来において、昭和59年1月から昭和62年12月の4年間に423件の外来手術が行われている。

しかし、当外来には手術前オリエンテーション基準もなく、外来業務の中での時間的制約もあり、患者の背景や生活習慣、理解度を知った上での十分なオリエンテーションができていないのが現状である。また、手術後通院してくる患者と接する中で、帰宅後の日常生活から困った事や不安など聴く事があった。

そこで、手術前、手術後を通して、患者が何に不安を感じたかを把握する為に、外来手術の中でも手術後7～10日間のギプス装着を要し、日常生活動作の制限が考えられる尺骨神経移行術を受けた患者を対象にアンケート調査を行った。その結果から、不安を軽減する為にどのような援助を行えばいいのか検討し、手術前オリエンテーションの重要性と、手術後の生活指導の必要性を再認識した。まだ第一段階ではあるが、今回はオリエンテーション項目と、手および指の手術を受ける患者に共通して指導が行える手術前、手術後のパンフレットを作成したのでここに報告する。

II 調査方法

昭和60年11月29日から昭和62年10月2日までに当院整形外科外来において、尺骨神経移行術を受けた患者（男性4名、女性6名、計10名）を対象にアンケート調査用紙（資料①）を郵送し、回収した。

資料①アンケート用紙

_____様

朝夕めっきり寒くなり、秋も深まって参りました。皆様お変わりなく、お過ごしのことと存じます。この度、当病院整形外科外来では「外来で手術を受けられる患者さんの不安を軽減する為の援助」について検討会を行っております。全身麻酔などによる手術は、入院して手術を行う必要がありますが、例えば手指の手術などは、局所麻酔、伝達麻酔で外来で手術を行うことがあります。

今後、同じ様な手術を受けられる患者さんに役立つ為にも、手術を受けられた方の御意見御感想を是非お聞かせいただき、参考にさせていただきたいと思っております。

お忙しいところ恐縮ですが、同封のアンケート用紙にご記入の上、同封返信用封筒にてご返送下さいますようお願い致します。

昭和62年11月20日

外来診療部看護業務検討会
外来診療部婦長 岡島寿子

_____さんは、昭和 年 月 日に、整形外科外来において、手の手術を受けられました。その当時の事を振り返り、質問にお答え下さい。

質問1 その当時の御職業、具体的に仕事内容も書いて下さい。

(例) スーパー店員 レジをうっていた。

()

質問2 手術を受ける前に、どんな不安や心配な事がありましたか、該当する項目があれば、いくつでも○を入れて下さい。(特に強く思ったことには◎を入れて下さい)

- a () 手術が成功して正常な時のように良くなるのだろうか。
- b () 麻酔はどんなふうにするのだろうか。
- c () 麻酔をすれば、手術中に痛みはないのだろうか。
- d () 手術の方法はどんなのだろうか。
- e () 手術時間はどの位かかるのか。
- f () 入院しないで家に帰って大丈夫だろうか。

- g () 仕事や家業にさしつかえないか。
- h () 家事労働がどの程度できなくなるのか。
- i () 入浴はいつ頃からできるのか。
- j () 手術の費用はどのくらいかかるのか。
- k () 傷跡はどの位になるのか、又、目立たないか。
- l () 何日間位通院すればいいのか。
- m () いつ頃から前の生活にもどれるのか。
- n その他 ()

質問3 手術後入院しないで自宅に帰る事に対して、どの様な不安がありましたか。

該当する項目があれば、いくつでも○を入れて下さい。

(特に強く思った事には、◎を入れて下さい)

- a () 麻酔はいつ頃まで効いているのか、切れてしまえば痛み出すのではないか。
- b () 帰宅途中や自宅で痛みが強くなってきたらどうすればいいのか。
- c () 帰宅途中や自宅で熱が出たり、出血など異常な事が起こったらどうすればいいのか。
- d () ギプスでしめつけられたり、こわれたりはしないのか。
- e () 手術当日を含め、これからの通院をどんな交通手段にしたらよいか。
- f () 入院しないのだから仕事はしてもよいか、又、仕事をして悪くならないのか。
- g () 家族に迷惑をかけるのではないか。
- h その他 ()

質問4 手術中苦痛だった事で該当する項目があればいくつでも○を入れて下さい。

(特に強く思った事には◎を入れて下さい)

- a () 手術中ずっと点滴注射をしていた事。
- b () 脇の下から行った麻酔がいやな感じだった。
- c () 手術しているところが痛かった。
- d () 体の向きや手を動かさないのでつらかった。
- e () 血を止める為、腕に巻いたバンドがしまつてつらかった。
- f () トイレに行けなくてつらかった。

g () 暑くて体がだるかった。

h その他 ()

質問5 手術後の仕事や日常生活で困った事がありましたか。該当する項目があればいくつでも○を入れて下さい。

a () 仕事を休まなければならなかった()日間。

b () 仕事には出たが、思う様に出来なくて迷惑をかけた。

c () 衣服の脱ぎ着が、1人ではしにくかった。

d () ギプスをしているので着る物に困った。

e () ギプスが重い、邪魔になった、こわれそう。

f () 傷口が痛い、かゆかった。

g () 家族に迷惑をかけた。

h () 家族が、家事にあまり協力してくれなかった。

i () 車の運転が出来なかった。

j () 食事がスムーズにとれなかった。

k () トイレの時不便であった。

l () 体が洗えなかった。

m () シャンプーが出来なかった。

n () 洗面の時不便であった。

o () 化粧の時不便であった。

p その他 ()

質問6 手術前にあった症状は手術後、いつ頃から変わり、現在の状態はどうですか。

(例) 手術後1週間ぐらいから手のしびれが軽くなり現在はほとんどない。

()

質問7 手術が終わって感じたことで、該当する項目があればいくつでも○を入れて下さい。

a () 手術は簡単だと思っていたが案外つらかった。

b () 麻酔が思っていた方法とは違っていった。

c () 手術後ギプスを巻くとは思わなかった。

d () 手術後に適している服の説明を前もってしてほしい。

e () 車の運転が出来ない事を前もって説明してほしい。

f () 日常生活の工夫など、細かいアドバイスや注意する事を説明してほしい。

g () やっぱり入院して手術を受けたかった。

h () 外来で手術を受けて都合がよかった。

i その他 ()

質問内容以外で、何か御気付きの点や、御要望があればお書き下さい。

()

御協力ありがとうございました。

御不明な点は、下記まで御連絡下さい。

TEL (0888) 66-5811 内線3350 整形外科外来

Ⅲ 調査結果と考察

質問2では、手術後の機能回復に対する不安が強い。手術方法、手術中の痛み、麻酔方法に対する不安がそれに続く。これは手術前における医師、看護婦の説明不足と患者の理解程度の確認不足が大きく影響しているものと思われる。手術後帰宅する事への不安に対しては、患者教育が必要と考える。

質問3では、手術後の疼痛発生への不安感が強い反面、ギプス装着に関する不安は全くない。ギプスによる循環障害等の予測を考える看護婦側の心配とは全く対照的であり、これは手術前手術後を通じて、十分その発症についてオリエンテーションと連絡の必要性を説明しておく事が重要であろう。

質問4では、手術中の同一体位、止血の為のバンドによる苦痛が強く、麻酔による異和感の訴えもある。これは手術前に、その必要性を患者自身が理解できるための説明が十分できていなかったためと考えられる。

質問5では、衣服の着脱、洗面、洗髪、入浴など清潔面や、食事、排泄などの日常生活動作の制限により不便を感じている訴えが多い。その他、リハビリテーションの方法がわからないとの答えがあり、当然のことではあるが手術後にパンフレットなどによる工夫された、細かい指導が必要であると考えられる。

質問6では、現在もなお痛み、しびれなど何らかの症状が残存している患者が半数以上ある。経過や症状を観察しながら今後も継続し、医師、理学療法士、看護婦と共に検討、指導を行ってゆく必要がある。

(質問2)手術前の不安

(◎強い不安)
(○不安)

人数	1	2	3	4	5	6	7	8	9
a	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	
b	○	○	○	○					
c	◎	○	○	○	○	○			
d	◎	◎	○	○	○	○			
e	○	○	○	○					
f	◎	◎	○	○	○	○			
g	○								
h	○	○	○	○					
i	○	○	○						
j									
k	◎	○	○	○	○				
l	◎	○	○	○					
m	◎	○	○	○					
n									

(質問3)手術後帰宅する事への不安

(◎強い不安)
(○不安)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
a	◎	○	○	○	○				
b	○	○	○	○					
c	◎	○							
d									
e	○	○							
f	○	○							
g	○	○	○	○					
h									

(質問4)手術中の苦痛

(◎強い苦痛)
(○苦痛)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
a									
b	◎	○	○						
c	○	○							
d	○	○	○	○					
e	◎	◎	○						
f	◎								
g	○								
h	○	○							

h その他：骨をけずる音や響き

(質問5)手術後、仕事、日常生活で困ったこと

人数	1	2	3	4	5	6	7	8	9
a	○	○							
b	○								
c	○	○	○	○	○				
d	○	○	○	○	○				
e	○								
f	○	○	○						
g	○	○	○						
h									
i	○	○							
j	○	○	○	○	○				
k	○	○	○	○	○				
l	○	○	○	○	○	○			
m	○	○	○	○	○	○	○		
n	○	○	○	○	○	○	○		
o	○	○	○						
p	○								

p その他

寝る時身体が自由にならない
リハビリの方法がわからない

(質問6)手術後の自覚症状

1. 術後2~3ヶ月して、時々軽くしびれは残るが、痛みはない。
2. 手のしびれが、軽くなりよくなりつつある。
3. 手術前と同じ様に、手先が痛く困っている。
4. 季節や仕事内容により、腕や指がしびれたり寒さを感じる。
5. 半年位で完治した。
6. しびれはなくなった。強く手を使うと、夜、手がだるく痛みがはしる。
7. しびれはなくなったが、痛く、手が思う様に動かない。
8. しびれと痛みが少し残る。
9. 術後2週間位から手が動かしやすくなり、とても楽である。

質問7では、医師、看護婦側の説明不足を痛感するような感想—麻酔方法が考えていたものと違っていた、手術は簡単だと思っていたなど—があった。

以上の結果、手術前、手術後のそれぞれの時点で、患者の理解度に合わせ、具体的かつきめ細かい指導、説明を行うことにより、患者のもつ不安は軽減されると思われる。そのためにオリエンテーション用紙、パンフレットを作成し、また、より効果的に、説明洩れなどを防ぐ為にオリエンテーション項目を同時に作成した(資料②)。

(質問7)手術後の感想

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
a	○	○	○						
b	○	○	○						
c	○	○							
d	○	○							
e									
f	○	○							
g	○	○	○	○					
h	○	○	○						
i									

資料②術前オリエンテーション項目

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1. 手術日時について | 12. 手術中の点滴について |
| 2. 来院時間について | 13. 止血について |
| 3. 食事について | 14. 手術後のギプスの有無について |
| 4. 手術するにあたって | 15. 手術中の衣服について |
| 5. 疾患の有無について | 16. 手術後の衣服について |
| 6. 手術、麻酔経験の有無について | 17. 外来通院について |
| 7. 麻酔方法について | 18. 入浴について |
| 8. 手術部位について | 19. 車の運転について |
| 9. 手術体位について | 20. 手術費用について |
| 10. 手術所要時間について | 21. わからない事、不安な事について |
| 11. 予定術者について | 22. 同意書について |

Ⅳ 手術前、手術後パンフレット作成の実際

手術前パンフレットは、入院中の患者の手術前とは異なり、外来で手術を受ける為、身体の準備と帰宅までの注意すべき点（車の運転についてなど）に重点をおいて作成しなければならない。手術前には、

- ①患者の背景や生活習慣などの情報収集。
- ②患者の障害に対する苦痛や手術に対する不安を知る。
- ③患者と医療者との信頼関係をつくる。

ことを目的として面談を行う。面談効果を高めるために、

- ①適切な場所を選び、落ち着いた状態をつくる。
- ②限られた短い時間に、より効果をあげるため、チェック項目を活用する。
- ③患者の理解度に合わせた言葉と速度で話す。

など考慮しながら行う。

手術後、患者は病院を離れる為、種々の不安が生じた場合すぐ医療者の対処が得られず問題を解決し難い。手術当日の不安と、自宅療養中に生じる不安を軽減する為に手術後パンフレットは不可欠であると考え。その内容としては、

- ①予測される苦痛や不安を患者自身が解決できる具体的方法。
- ②日常生活の中で参考となるもの。
- ③注意事項。
- ④医療者への連絡方法が明記されている事。

を含むものであり、患者、家族にパンフレットを見せながら説明を加え、手渡す事は安心して帰宅し、自宅療養する為の手助けになるのではないか。そして、外来通院期間を通じて継続した個別性のある指導を行ってゆく必要があると考える。

Ⅴ おわりに

今回、外来手術を受ける患者のもつ不安を一部ではあるが把握できた。煩雑な外来看護業務の中で、この不安への援助はたやすいものではない。しかし、患者教育指導という面で非常にやりがいのある援助である。作成した手術前手術後パンフレット（資料③、④）を活用し、一定期間をおき、外来手術患者の不安軽減に役立っているかどうか検討し、より効果的なものにしてゆきたい。

資料③手術前パンフレット

手および指の手術を受けられる方へ

I. 手術日は__月__日__曜日__時__分からの予定です。

__時__分頃迄には外来へお越し下さい。

麻酔は_____で行います。

II. 手術日までの準備

1. 診察券、予約票、手術同意書を持参して下さい。
2. 前日は入浴、シャンプーをし、爪を短く切っておいて下さい。
3. 下記の病気のある方（過去にかかった事のある方）は○印を付け、手術日に看護婦にお渡し下さい。

高血圧・糖尿病・心臓病・出血傾向（出血しやすい方）

III. 手術当日

1. 着脱のしやすい服装でおいで下さい。
2. 車を運転して来ないで下さい。
3. 手術中などに気分が悪くなり、はきけを起こす場合もありますので、食事は手術2～3時間前迄に軽くとって下さい。それ以後何も食べないようにして下さい。
4. 貴重品は、なるべくお持ちにならないよう、必要最少限の物だけをお持ちになって下さい。
5. 手術開始前に排尿して頂き、その後毛剃りをします。

IV. 手術中に、痛みや苦しい事があれば、無理に辛抱しないで遠慮なく申し出て下さい。

※不明な点は、下記まで御連絡下さい。

TEL (0888) 66-5811 内線3350 整形外科外来

資料④手術後パンフレット

手および指の手術を受けられた方へ

無事に手術を終えられ、ほっとなされたと思います。しかし入院せず、自宅に帰られ、外来通院するという事で、何かと不安やわからない事などあると思います。

このパンフレットに目を通され参考にして下さい。

I. 手術後の痛みについて

麻酔がさめてくると多少なりとも痛みを感じます。痛み集中すると、緊張が高まりますので、他の事に気をまぎらわすことも大切です。肩の力を抜いて、大きな息をして、リラックスしてみてください。それでも痛みが強い時は先生から痛み止めがでていきますので、我慢しすぎる必要はありません。早く使用し、痛みをとって下さい。

①坐薬の場合（肛門より薬を挿入し、痛みをとる）

- ・使用後30分～1時間で効果が出てくると思います。
- ・使用後は静かに休み、力まないようにして下さい。
- ・1ヶで効果がなければ4～5時間、時間をあけてもう1ヶご使用下さい。

※坐薬を使用して気分が悪くなられる方がいます。その場合は連絡して下さい。

②屯服の内服薬の場合

- ・痛くなればいつでも飲んでよいのですが、何か少し食べてから内服されたほうが胃を刺激せずよろしいと思います。
- ・この薬も効果がないようでしたら4～5時間、時間をあけてもう1包ご使用下さい。

II. 麻酔について

脇の下から麻酔をした方は、腕全体に効いています。さめてくるには、個人差がありますが、少しずつ自分の手という感じが戻ってきます。翌日まで効いている方もありますのでご安心下さい。

III. 内服薬について

処方された内服薬には、化膿止めが入っています。大切な薬です。必ず指示された通り内服して下さい。

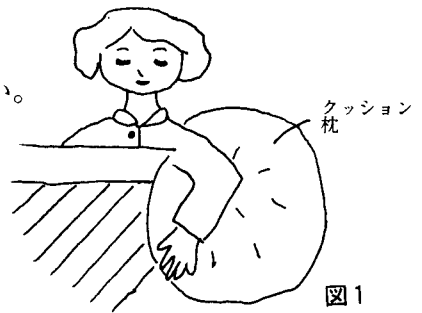
IV. 帰宅してからの注意

手術当日は、激しく動くとは出血の原因ともなりますので、以下の事に注意し、安静にして

下さい。

- ・激しく動かしたり、力を入れたりしないで下さい。
- ・お酒は飲まないで下さい。
- ・手術した方の手は濡らさないで下さい。
- ・寝る時は手を敷き込まないように気を付けて下さい。

※クッションや枕を利用し、その上に手を置き、胸より少し高くして休まれますと手の腫れも痛みも少しやわらぎます。(図1)



V. 日常生活での工夫

- ・衣服・・・袖口がなるべく大きな物を着ましょう。ボタン等は少ない方が良いでしょう。着る時は、まず、手術した方から通し、脱ぐ時は良い方の手から脱ぐと脱ぎ着しやすいです。
- ・洗面・・・手術した方の手を濡らさないように気を付けて下さい。もし濡れた時はヘアドライヤー等で乾かして下さい。
- ・食事・・・手術当日は手術した手は使わないで、反対の手でスプーンやフォークを利用し、食べるようにして下さい。
- ・手洗い・・・トイレ時不便ですが、不潔にならない為に、手術した方の手は包帯がとれる迄、使わない方が良いでしょう。

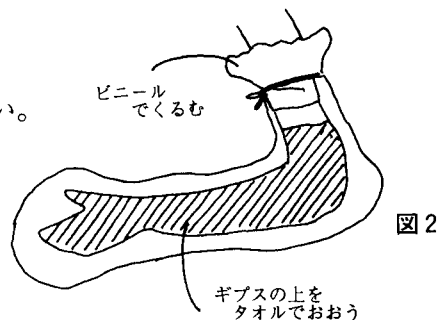
・入浴

手術当日・・・シャワー浴、入浴はしないで下さい。

手術後1～2日・・・下半身シャワー浴できます。

手術後3日以降・・・入浴できます。

※シャワー浴、入浴時は図2のように濡らさない工夫をして行って下さい。



- ・シャンプー・・・抜糸後まで我慢出来ない方は、家の人に手伝ってもらうか、理容室などご利用されるのも良いでしょう。

VI. 外来通院について

手術翌日は、必ず来院して下さい。術後の経過を見たり、抗生物質の注射をする事もあ

ります。

- ・その後は、傷口の状態や経過により、医師が来院日を決めます。
抜糸までは、だいたい1日ごとに傷口の消毒をします。
- ・抜糸が終わると、専門外来で定期的に経過観察をします。

Ⅶ. 抜糸について

- ・手術後7～10日目に行います。
- ・抜糸当日は、水に濡らさないようにして下さい。抜糸後1～2日は強くこすらないように注意して下さい。

Ⅷ. 指の運動について

- ・傷口に痛みが響くと思いますが、手術翌日から、手術していない指の関節を動かしたり、マッサージしたりして下さい。運動は関節が硬くなるのを防ぎます。また、指のマッサージは血液循環をうながし、腫れが軽減するのに役立ちます。

Ⅸ. ギプスをされた方

- ・装着期間の目安は抜糸までです。
- ・万一しめつけられる痛みや、指、爪の色が悪くなるような事があれば、連絡して下さい。場合によっては取りはずす事もあります。
- ・ギプスで圧迫されて痛いなどの症状があれば外来通院時に申し出て下さい。一部カットし、調節します。
- ・ギプスをはずす迄は、図3のように三角巾をしていた方が重くなく、安定感があります。
寝る時も、クッション、枕をご利用の方が腫れも少ないと思います。
- ・ギプスをはずせば日常生活は普通に行って下さい。しかし、急に重い物を持たないように注意し、力仕事やスポーツ等の開始は、医師にご相談下さい。



図3

X. 車の運転

- ・不自由な上肢の状態での運転は事故の原因となりかねません。
抜糸が終わる迄は車の運転は行わないようにして下さい。

Ⅱ. 連絡先

- ・心配な事や不安があればいつでも電話で御相談下さい。医師または看護婦がお答えし、

必要時は診察いたします。

尚，診察券番号と手術日をお尋ねする事があります。

※昼間…TEL (0888) 66-5811 内線3350 整形外科外来

夜間…TEL (0888) 66-2351 当直室 (時間外)

外来通院は大変ですが，御家族の協力も得ながら頑張ってください。

整形外科外来

※メ モ

《参考文献》

- 1) 池田さと子：アンケートからみた手術前患者の不安について，看護研究，6(4)，p 24～33，1973
- 2) 小島 操子：術後痛に不安をもつ患者へのアプローチ，臨床看護，10(5)，p 628～633，1984
- 3) 小島 操子：不安を伴った患者への援助の技術，臨床看護，7(6)，p 812～819，1981
- 4) 水口 公信他：手術前の不安対策に関する研究，精神身体医学，15，p 272～279，1975
- 5) 津下 建哉：私の手の外科，第2版，p 12～19，402～409，1986